

令和４年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は様々な事情を持つ人々が学びを求めて、一同に集う学校である。このような生徒に寄り添い、個々に応じた教育活動を実践し「入学してよかった」と言われる学校をめざす。

① 生徒が自分の未来を創造できる学校：基礎学力を身につけ、社会の一員として活躍できる人材を育成する。

② 生徒一人ひとりが大切にされる安全で安心な学校：規範意識を育て、互いの違いを認め、周囲への気配りのできる人材を育てる。

③ 地域・家庭と連携し、協力して生徒を育てる学校：連携を通じて愛される学校をめざす。

2 中期的目標

1. 基礎学力の定着
- (1) 「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり
- ア. ICTや視聴覚教材を取り入れた、興味・関心を高める授業の推進
- イ. 規則正しい学校生活を通して授業規律を確立し、学習環境の充実をはかる
- ウ. 生徒の認知能力を把握し、個々に応じた授業内容・教材の工夫をおこなう
- ※学校教育自己診断で「学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率(R1 84% R2 85% R3 89%)をR6年度には89%を維持する。
- ※学校教育自己診断で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率(R1 58% R2 67% R3 75%)をR6年度には78%にする。
- ※新入生の2年生への進級率(R1 71% R2 89 % R3 82%)をR6年度には85%にする。
- (2) 図書館の利用を促進する。(生徒一人当たり平均利用回数：R1 5.0回 R2 - 回 R3 7.9回)をR6年度には8.5回にする。
2. 自尊感情の育成
- (1) 人としての倫理観や規範意識を確立する
- ア. 互いを認め、ともに高めあう人間性の育成
- イ. 命の大切さ、善悪の判断等について指導する
- ※学校教育自己診断で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率(R1 75% R2 83% R3 87%)をR6年度には87%を維持する。
- (2) コミュニケーション力の向上
- ア. 挨拶のできる生徒を育てる
- イ. 学校行事へ積極的に参加できる環境をつくり、人と関わる喜びを体験させる
- ウ. 体育祭、文化祭等の行事において、保護者、地域、中学校教員と積極的に連携、交流をはかる
- ※学校教育自己診断で「自分はあいさつをしている。」の肯定率(R1 69% R2 71% R3 72%)をR6年度には75%にする。
- ※学校教育自己診断で「体育祭、文化祭などの学校行事は、みんな楽しい。」の肯定率(R1 74% R2 72% R3 74%)をR6年度には75%にする。
- (3) 家庭、中学校、地域との連携強化
- ア. 必要な情報を速やかに発信し、情報共有を密にする事により、学校、家庭、中学校、地域が一体となり教育活動を進める。
- イ. ボランティア活動の継続
- ※保護者向け学校教育自己診断で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率(R1 85% R2 93% R3 83%)をR6年度には90%にする。
- (4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実
- ア. フォローアップコーディネーターを中心とした、個々のニーズに応じた支援体制を強化する。
- ※学校教育自己診断で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率(R1 72% R2 70% R3 81%)をR6年度には81%を維持する。
- ※中退率(R1 12.5% R2 4.2 % R3 5.3 %)をR6年度には8%以下を維持する。
3. キャリア教育の充実
- (1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。
- ア. 進路に関する十分な情報を生徒へ提供するとともに、保護者との連絡を密にし、学校・家庭が一体となって指導にあたる
- イ. ガイダンス機能の充実をはかり、1年次より継続的に個々のニーズに応じた進路指導を行う。
- ウ. 就労体験・応募前見学を進め、就職希望者の進路決定率を向上させる。
- ※学校教育自己診断で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率(R1 79% R2 84% R3 82%)をR6年度には84%にする。
- ※学校教育自己診断で「進路指導に関する問No.15・16」の肯定率(R1 75% R2 82% R3 82%)をR6年度には85%にする。
- ※卒業生の進路決定率(R1 61% R2 64 % R3 64 %)をR6年度には64%を維持する。
4. 学校力の向上
- (1) 教員力の向上
- ア. 授業見学、研究授業等により、授業力向上に取り組む。
- イ. 首席を中心に、経験年数の少ない教員の育成に取り組む。
- ※学校教育自己診断で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率(R1 78% R2 79% R3 84%)をR6年度には84%を維持する。
- (2) 職務の効率化
- ※年間時間外勤務 240時間以下
- ※年次有給休暇の取得率 70%以上
- (3) コンプライアンス意識の向上
- ア. 不祥事の防止、個人情報管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる。
- イ. セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報管理体制を強化する。
- (4) 危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 4 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【基礎学力の定着】 生徒の授業に関する 4 項目は肯定回答の平均が 83. 3%（R 3 79. 5%）、また保護者では同様の 2 項目の肯定回答の平均が 71. 0%（R 3 66. 5%）といずれも増加した。1 人 1 台端末や ICT 機器の活用が増え、動画やイラスト、グラフなどを提示したことで理解しやすくなり、授業中の個別対応など、丁寧かつわかりやすさを重視した授業改善の結果が表れた。 【自尊感情の育成】 生徒の自尊感情の育成としての指標である 4 項目は肯定回答の平均が 80. 2%（R 3 77. 8%）と微増したが、保護者の同項目（4 項目）の肯定回答の平均が 74. 5%（R 3 87. 8%）と大きく減少した。生徒については学校行事における制限が少なくなったことや一定の制限があってもその中で自主的に活動できることで、充実感を味わったと思われる。また学年の方針や各教員の粘り強い取り組みの結果、あいさつをする生徒が増えてきていることなどが肯定回答の増加に関係している。しかし保護者のポイントは低くはないが、生徒を通じて保護者にまで学校としての取り組みが伝わるよう HP や配布物などをこれまで以上に活用して、さらに丁寧に情報を伝えていくことが必要である。 【キャリア教育の充実】 生徒のキャリア教育に関する 5 項目は肯定回答の平均が 80. 0%（R 3 76. 0%）となり、保護者では同様の 3 項目の肯定回答の平均が 76. 7%（R 3 80. 7%）となった。生徒への説明の際 ICT 機器を活用し、わかりやすくしたこと、就職・進学についての情報を「進路通信」などを配付して伝えたことなどが増加の原因と考えられる。保護者では懇談等で十分情報を伝えているが、より丁寧な対応を心がけたい。	第 1 回（7 / 8） ○R 4 年度学校経営計画について ・ 1 人 1 台端末の活用について進めていただきたいが同時に紙媒体をもとに学習するということも大切にしてもらいたい。 ・ ボランティア清掃は素晴らしい取り組みであり是非続けていただきたい。清掃活動だけにとどまらずほかの奉仕活動も考えてみてはどうか。 ・ 不登校経験のある生徒、学び直しを望む生徒、日本語の支援が必要な生徒など、さまざまな生徒が在籍し、登校することをベースに人と関わり、社会につながる学校として地域での存在意義は高い。 第 2 回（11/29） ○授業見学について ・ 今年度から新しいカリキュラムに入った「公共」は、政治について学んでいて非常に生活に密接していて良かった。 ・ スライド等を工夫していて視覚的に分かりやすい授業だった。 ・ 「科学と人間生活」では生徒が興味・関心を持つような実験（火山のでき方）を行っていて見ていて面白かった。 ・ 黒板の板書をノートに書かせることもしていて、改めて「便利さ」と「書くことの大切さ」をバランスよく取り入れることが大事だと感じた。 ・ 少人数での授業の良さを感じた。 ○授業アンケートについて ・ 全項目でポイントが上がっており、このままの状態を継続していってもらいたい。 ・ 授業規律を守らせていることについてのポイントが高いが、生徒は教員が注意してくれるか見ているので良いことだ。 第 3 回（2 / 2） ○学校教育自己診断アンケート結果等について ・ 職場体験を行ったとあったが、職業観や勤労の意識が高まるのでいい取り組みだと思う。続けてほしい。 ・ ゼロ限・土曜講座の魅力を高め、視覚的に分かりやすくするなど伝え方を改善してみてはどうか。 ・ 防災についての生徒のポイントが高く、意識が高まっていて良い。 ・ 教員の働き方改革を進めて欲しい。 ・ 中学校として卒業生の現状報告をしてくれることはありがたい。 ○第 2 回授業アンケート結果 ・ 今回各項目で低下しているがそれでも高水準であり、一喜一憂せず授業改善を進めて欲しい。 ・ 生徒が授業を受けて理解できた等の生徒の意識が高まる取り組みをお願いしたい。 ○令和 5 年度学校経営計画及び自己評価（案） ・ コグトレは認知機能強化に良いと思う。 ○新型コロナウイルスの状況と季節性インフルエンザの状況 ・ 引き続き感染対策を講じながら教育活動を進めて欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3 年度値]	自己評価
1 基礎学力の定着	(1)「分かる」「楽しい」を実感し、「達成感」を持てる授業づくりと環境づくり	(1) ア・1 人 1 台端末を活用し、併せて ICT や視聴覚教材を取り入れ、わかりやすい授業を実施する。 ・ 1 人 1 台端末の有効活用、授業展開のさらなる工夫により、生徒が積極的に参加できる、双方向の授業を実施する イ・挨拶運動、巡回指導、携帯指導を継続する。 ・ 教員が授業中の状況が落ち着いたことに満足せず、中抜け、無断早退の指導を継続し、授業規律を確立する。 ・ これらにより、さらに授業に集中できる環境づくりを進める。	ア・学校教育自己診断で「学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率を維持する [89%] ・ 授業アンケート「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の学校平均を 0. 02 上げる。 [3. 28] イ・学校教育自己診断で「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率を 2 ポイント上げる。 [75%] ・ 授業アンケート「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に 対し注意をしている。」の学校平均を 0. 02 上げる。 [3. 38] ・ 早退者数 400 件以下を維持する。 [336]	ア・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業はプリント、スライド、映像等の補助教材も使うなど工夫をしている」の肯定率は 90%となり維持できた。ICT の効果的な活用、1 人 1 台端末の活用が増えたことが結果に表れた。 (○) ・ 授業アンケート「授業に、興味・関心を持つことができたと感じている。」の学校平均は 3. 36 と大幅に上がった。各教員の授業に意欲的に取り組む姿勢が表れた。 (◎) イ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業中は、落ち着いて学習しやすい。」の肯定率は 77%となり 2 ポイント上がった。生徒指導部を中心に教員の一致した指導を継続したい。 (○) ・ 授業アンケート「先生は授業中してはいけないことをしている生徒に対し注意をしている。」の学校平均は 3. 58 と大幅に上がった。各教員の一致した指導がポイントアップにつながった。(◎) ・ 早退者数は 213 件と目標値を大きく上回った。担任、生徒指導部の粘り強い指導の効果が表れた。 (◎)

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

	(2) 図書館の利用を促進する	ウ・1年生に対して入学時、コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、認知能力の把握を行う。 - 毎日1度は授業の最初に「コグトレ」を実施する。1年間継続して実施することにより、認知能力の向上をはかる。 - 年度末に、再度コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストを実施し、1年間の認知能力の向上を検証する。 - 生徒の特性を理解したうえで、個々の能力に応じて授業内容を工夫し、基礎学力の定着をはかる。 1年間実施した後の2年生に対して、コグトレの効果の持続性を検証する (2) - 図書館の授業での活用を促進し、本に触れる機会を増やす。	ウ・コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストの結果が向上した生徒の割合を 80 %を維持する。 [80%] ・新入生の2年生への進級率を 85%にする。 [81%] ・図書館の生徒一人当たり平均利用回数を 8.4 回にする。 [7.9 回]	ウ・コグトレを活用した本校独自の認知能力測定テストは2月に実施。結果が向上した生徒の割合 72%であった。(△) ・新入生の2年生への進級率は 75%。学年を中心に学校での居場所作りなどに取り組む必要がある。(△) ・図書館の生徒一人当たり平均利用回数は 8.0 回であった。(○)
2 自尊感情の育成	(1) 人としての倫理観や規範意識を高める (2) コミュニケーション力の向上 (3) 家庭、中学校、地域との連携強化 (4) 課題を抱える生徒への支援体制の充実	(1) ア、イ - 全教員により、授業、HR、総合的な学習の時間、総合的な探究の時間、学校行事において指導する。加えて、外部人材を積極的に活用する。 - 万一、新型コロナウイルス感染症陽性者が発生した場合でも、差別事象が発生しないよう全教員で指導する。 (2) ア・あいさつ運動は継続して実施する。受け身のあいさつだけではなく、自分からあいさつすることを HR や集会においてより一層促し社会人としての素養を身に付けさせる。 イ・生徒会が中心となって行事の企画運営を行う。 - 行事の参加率を上げる。 ウ・保護者への連絡の徹底と地域、中学校への情報発信 (HP や訪問) を活発にする。 ア・メール、HP を活用し、コロナに関することなど緊急性のある情報に加えて、日々の学校の様子などを積極的に発信し、保護者への情報伝達を迅速かつ密に行う。 - 学校説明会を3日間実施し、保護者、地域、中学校教員へ開かれた学校づくりをめざす。 イ・ボランティア清掃を各定期考査終了後4回実施する。 ア・フォローアップコーディネーターを中心に SC、SSW と密接に連携を取りながら、生徒支援委員会が中心となって活動する。ここで得た情報を全教員で共有することにより、一貫性のある指導を実施する。	ア、イ - 学校教育自己診断で「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率を維持する [87%] - 差別事象の0を維持する。 ア・学校教育自己診断で「自分はいいさつをしている。」の肯定率を1ポイント上げる。 [72%] イ・学校教育自己診断で「体育祭、文化祭などの学校行事は、みんな楽しい。」の肯定率を1ポイント上げる。 [74%] - 行事の参加率を 62%にする。 [体育祭、文化祭の平均 59.5%] ウ・体育祭、文化祭への来場者数を 300 人以上にする。 [R1 年度 293 名] ア・保護者向け学校教育自己診断で「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率を2ポイント上げる。 [83%] イ・1回当たりの参加者を 35 名以上にする。 [30 名] ア・学校教育自己診断で「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率を維持する。 [81%] - 中退率 8 %以下を維持する。 [5.3%]	ア、イ - 学校教育自己診断 (生徒)「命の大切さ、社会のルール、人権の大切さについて考える機会がある。」の肯定率は 86%で維持できたと考える。外部講師の効果的な活用を継続したい。(○) - 差別事象は発生していない。(○) ア・学校教育自己診断 (生徒)「自分はいいさつをしている。」の肯定率は 75%と3ポイント上がった。各教員、学年の取り組みを継続したい。(◎) イ・学校教育自己診断 (生徒)「体育祭、文化祭などの学校行事は、みんな楽しい。」の肯定率は 81%と大幅に上がった。生徒会の自主的な運営が結果として表れた。(◎) - 体育祭、文化祭の平均参加率 65.1% (◎) ウ・体育祭、文化祭への来場者を制限した。また HP の更新を大幅に増やして情報発信に努めた。(○) ア・保護者向け学校教育自己診断 (保護者)「学校は、家庭への連絡や意思疎通を行っている。」の肯定率は 78%と下がった。これまでの電話連絡、郵送などに加え、HP を活用するなどし、ポイント向上に努めたい。(△) イ・1回当たりの参加者は 23 名と減少した。開催日に他の内容で生徒を集めることと重なったことが要因である。(△) ア・学校教育自己診断 (生徒)「学校には、話を聞いてくれたり、気軽に相談できる先生がいる。」の肯定率は 79%と概ね達成できている。(○) - 中退率 9.0% (△)
3 キャリア教育	(1) 生徒が自らの将来設計について考え、踏み出すことができるよう、進路指導の充実をはかる。	ア・就職慣行の見直しなど、生徒・保護者の進路に関する理解を深めるため進路保健部と担任団が一体となって情報提供を行う。	ア・学校教育自己診断で「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率を2ポイント上げる [82%]	ア・学校教育自己診断 (生徒)「学校は、就職や進学についての情報を十分に知らせてくれる。」の肯定率は 83%と1ポイント上昇。肯定率の高さから達成したと考えられる。(○)

府立寝屋川高等学校 定時制の課程

育 の 充 実		イ・1年次より進路HRを実施し、進路選択について考える機会を設定する。 ウ・新たな就職慣行にも対応した就労体験、応募前会社見学を実施し、就職希望者の進路選択の機会を増やす。	イ・学校教育自己診断で進路指導に関する問「将来について考える機会がある」「進路情報を伝えてくれる」の肯定率を維持する。〔82%〕 ウ・卒業生の進路決定率 64%を維持する。〔64%〕	イ・学校教育自己診断（生徒）「将来について考える機会がある」「進路情報を伝えてくれる」の平均肯定率 82.5%で維持できた。（○） ウ・卒業生の進路決定率 80.8%（◎）
4 学 校 力 の 向 上	（1）教員力の向上 （2）職務の効率化 （3）コンプライアンス意識の向上 （4）危機管理体制及び保健・安全・衛生管理の徹底	ア・授業見学、研究授業を実施し、全教員で授業力向上に取り組む。 ア・会議の開催数減、時間短縮、ペーパーレス化を促進することで、職務の効率化をはかり、時間外勤務を減らす。また、年次有給休暇の取得を促進する。 ア・職員会議等において、繰り返し不祥事の防止、個人情報の管理、職場のハラスメントの防止について、徹底をはかる。 ・セキュリティーポリシーの徹底をはかり、個人情報の管理体制を強化する。 ア・校内体制を組み、マニュアルを作成し、全教員に周知する。 ・教職員研修を開催する。 ・新型コロナウイルス感染症予防を徹底する。 ・陽性者が発生した場合、迅速に対応する。	ア・全日制の授業見学を促進し、授業力の向上を図る。参加率を 10 ポイント上げる。〔30%〕 ・学校教育自己診断で「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率を維持する。〔84%〕 ・授業アンケート「先生は、わかりやすく説明してくれる」の学校平均を 0.02 上げる。〔3.50〕 ア・年間時間外勤務時間数を 120H 以内ににする。〔103H〕 ・年次有給休暇の取得率を 70%以上にする。 ア・不祥事、個人情報の流失、職場のハラスメントの事象を 0 件にする。 ア・年間 1 回以上教職員研修を実施し、周知できたか。	ア・全日制の授業見学は 2 月実施予定。参加率 48%（◎） ・学校教育自己診断（生徒）「学校の授業の説明は、わかりやすい。」の肯定率は 86%と 2 ポイント上がった。（○） ・授業アンケート「先生は、わかりやすく説明してくれる」の学校平均は 3.62 と大幅に上がった。各教員の授業に向けた真摯な取り組みが結果に表れており、継続していきたい。（◎） ア・年間時間外勤務時間数は 109H であった。（○） ・年次有給休暇の取得率 71.5%と達成できた。（○） ア・継続的に職員会議を中心にコンプライアンス意識の向上に取り組む。（○） ア・教職員研修は 1 回実施し、各種マニュアルも周知した。（○）